

龍

驚愕な半撃

華姫

うめうめ
かっかん

R-18
ADULT
ONLY

臨

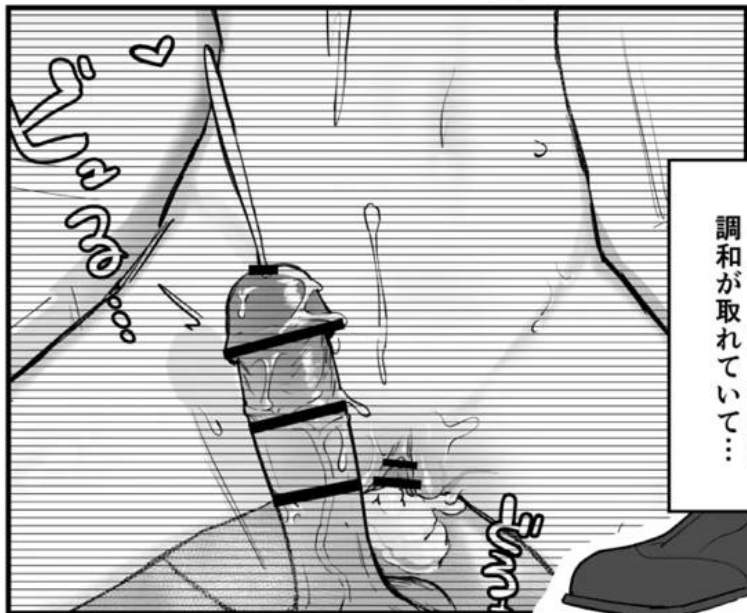


しかもあんな…
細くてちんまい口…
…りではないんだよねあ…



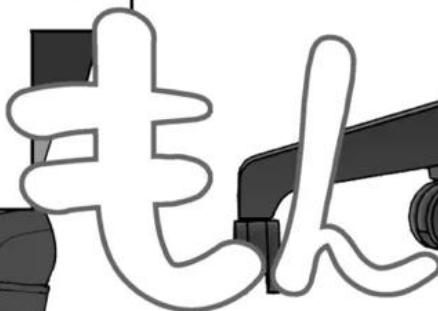
怜悯な目元に
慎ましい胸

絡みつくような
色薄い四肢に—



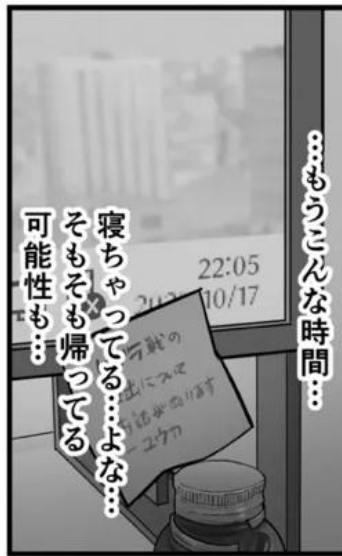
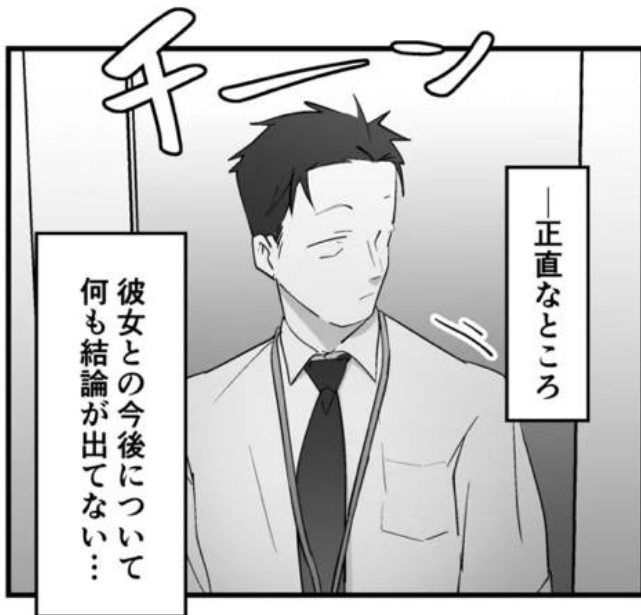
妙に成熟を感じる
あの腰つき

一見ちぐはぐなのに
調和が取れていて…









居る…

ヘイローは……

寝てるか。
よかつ…

よかつたのか…?

うん…

いかにもここじゃぞ…な
スペース空けてくれちゃって…

ムル…

服うつつす!!

肌寒くなってきたのに
こんな肩まで出して…

あまつさえ
こんな無防…備…

ドカ

あんなことも
あって

休憩室は数少ない
未だ不可侵の
安息の地だというのに

将自ら相手の寝所に
潜り込み…

というかあなた
身体の事も
あるんだから
ちゃんと暖かく
って…

丈短あッ!?

なっ…え?
みじっ…み…短あ
しかもこれ…履いてな…
えっ…は?

……..
駄目だろ許しちゃ…
大人として…これを…

明日起きたらちゃんと
言わ…言って聞く玉かね

時折…叱られるのを
待ち望んでるようにも
見えるからなあ

となれば
今のうちに何かしら
手を打っておくのも…

— 手弱女の
眠りながらも
醸す色

あッヤバ

ずまき

— 瞬間…香る
あの夜の記憶

あ…
でも 險が…

うっ…

然れども
日々の疲れに
呑み込まれ





さて…

写真も
撮ったことじゃし



…ああも密着されては

どうしたって
あの日
初夜を思い出す…



ふう…

※先生が喜ぶかと思って
持ってきていた着替え



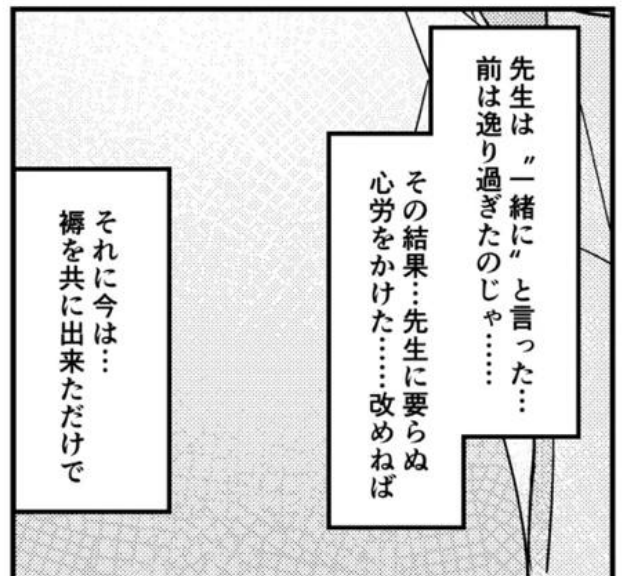
満足じゃ…

なぎゅ…

…ん？



お暇するのでしょうか…



先生は「一緒に」と言った…
前は逸り過ぎたのじゃ…

その結果…先生に要らぬ
心労をかけた…改めねば

それに今は…
褥を共に出来ただけで







スースーする
よう…
な…ッ?
?!



う…ん…
なにやら
下半身が…



えっ…
キ…サっ…



ちゅる…無言で
再開しないでっ



…なん…え?







この程度で
気を好くするなど
...妾も大概じゃな...



あ...そんな...っ
無理しないで

ん...む♡

にゅ
ぬ
ま
ま



っ
ちゅ
♡



にゅ
も

にゅ
も
♡



ああ…
ゴムをとったのか

ってこのゴム…
もしもの時用に私が
最近買ったやつ…?



備えと思って
休憩室に隠してたのに
当の本人に普通に
見つかった…

はむっ

え…キサ…



この…
どすけべ
優等生がア…!!

く
びゅ
びゅ
♡



まさか…初回で…

既に結構限界なのに
こんなパフォーマンス…

ちゅ
♡
♡
♡

は
♡
♡
♡

そ…その上目違い
無限に効くから
やめてえ…

で…出…
耐えろ…っ













なんと
凄まじい…

勝手に腰が
跳ねおる…



ほと
女陰から全身に
懸河の如き快感が…

はっ♡

はっ♡

はっ♡

思考が…理性が…
解けて…
流されていく…♡

しゅるしゅる♡



はっ…

しまった！
暴走してた…



ごつごめん！
キサキ！つい…

だいじょう…



もっ♡

うっ…
この強請る
ような瞳…



ぽっ♡



あの…
キサキさんっ
見える♡

しゅるしゅる♡

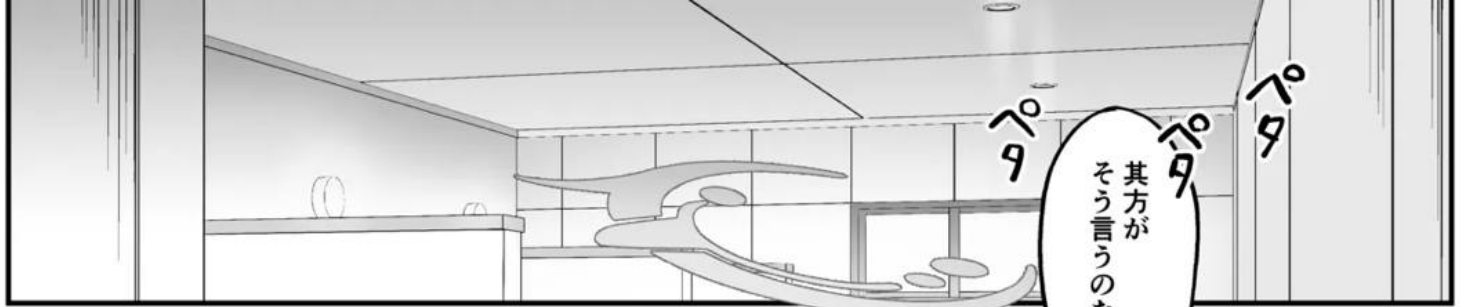












其方が
そう言うのなら…

妾も全うすると
しようかの？



キサキ…
その…身体は
大丈夫なの…



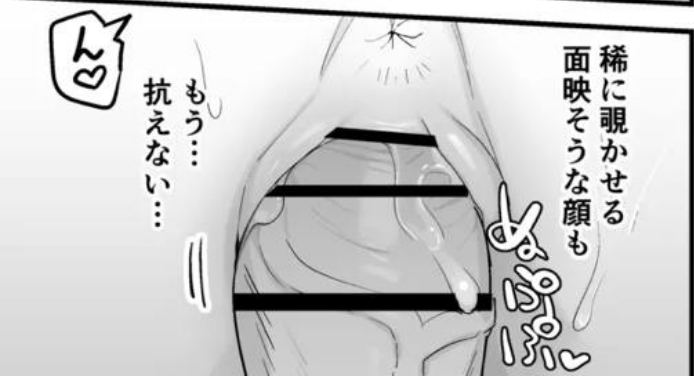
低く見られたものじやな
この程度
心配には及ばぬよ…

歳背丈に
不似合いの
靈惑も…



それに…その…
溜まって…
おったのじやろう？

ッ！



もう…
抗えない…

稀に覗かせる
面映そうな顔も





なんびと
何人も…
天も…



たまさかの享楽に
塗れるくらい…



禍福は糾える縄
であるなら…



咎めはせぬ
じやろうか…



ぐわんぐわん♡

あああ♡





ッ!?



連絡…した
…すけど

だ…誰だ…?

いや…朝の
この時間…おそろく…



モエは相変わらず
ですね…

ふふ…

この声は…
ミヤコと…ミユ…?
二人…か?
RABBIT小隊なら
二人…だよな…

SRTの彼女たちが
全員で持ち場を
離れるなんて
しないだろうし…



かなり危機的状況だが…
まだ首の皮一枚…



ん…髪…?
ああ…
曇りガラスとはいえ
お団子は目立つ…か…

ていうか…キサキ
さつきから
締めすぎ…

ぎゅっ



え…
ミヤコちゃん
あれ…

ッ! ここは
不審がられる前に…



キサキは彼女たちと
面識ないはずだし…
ここは私だけでッ



ミヤコと…
ミユだね?

せ…先生でしたか…
……せ…先生っ!?
すみません…すぐ出ます

流石のキサキも
慌てるのか
逸る鼓動が
伝わってくる…

あとあんまり
しがみつかないでっ!
小さいけど
ちゃんと在る胸が逆に…
じゃなくてっ



まっ待って!







こやつ
先生はどうじゃ…

おのれのよわさ
器の脆さを押し殺し…
独り先達として
周囲の期待信頼に
応え続けるという演目…

同じなのじゃ…
此奴と妾

妾だけが…
この憂愁を
知っている…

この都市で
妾が一番
近いところに居る…

妾だけが此奴と
真に睦み合える…
妾だけが此奴を
此奴だけが妾を…

ハハハハハ

ハハハハハ

故に此は
必然の縁起…

ずいっ

たとえこの思惟が
噴飯の奢りであろうと…

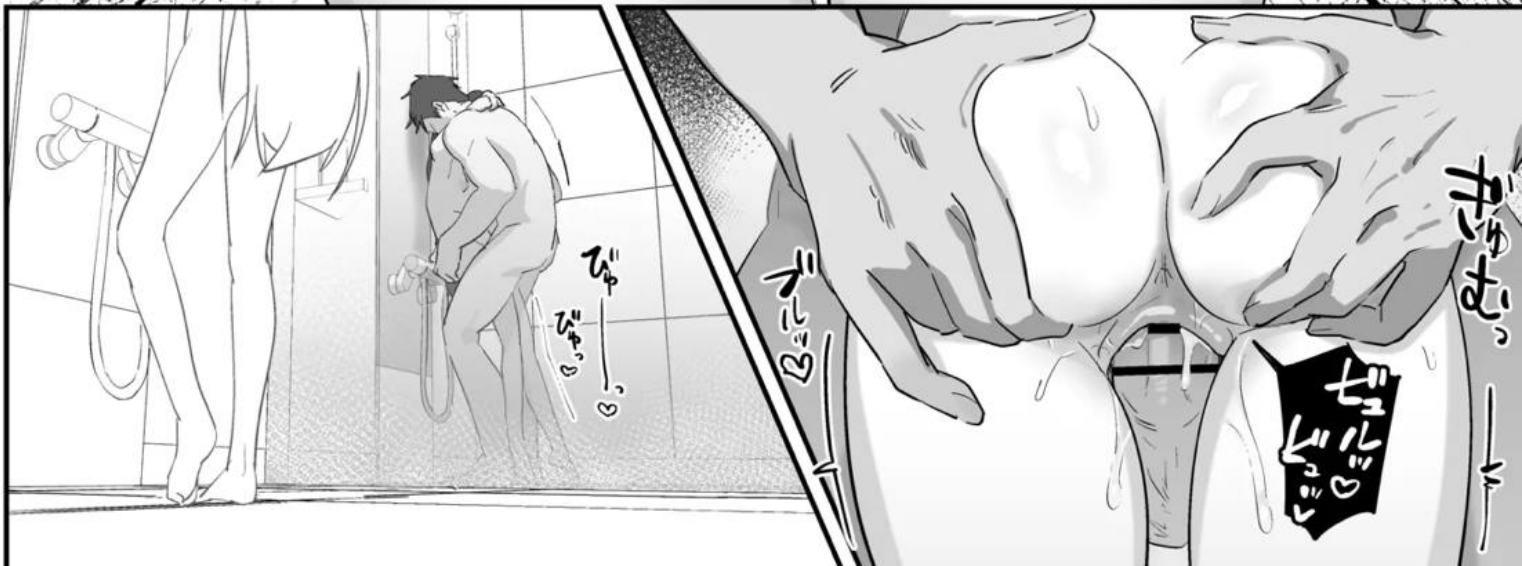
ハハハハハ

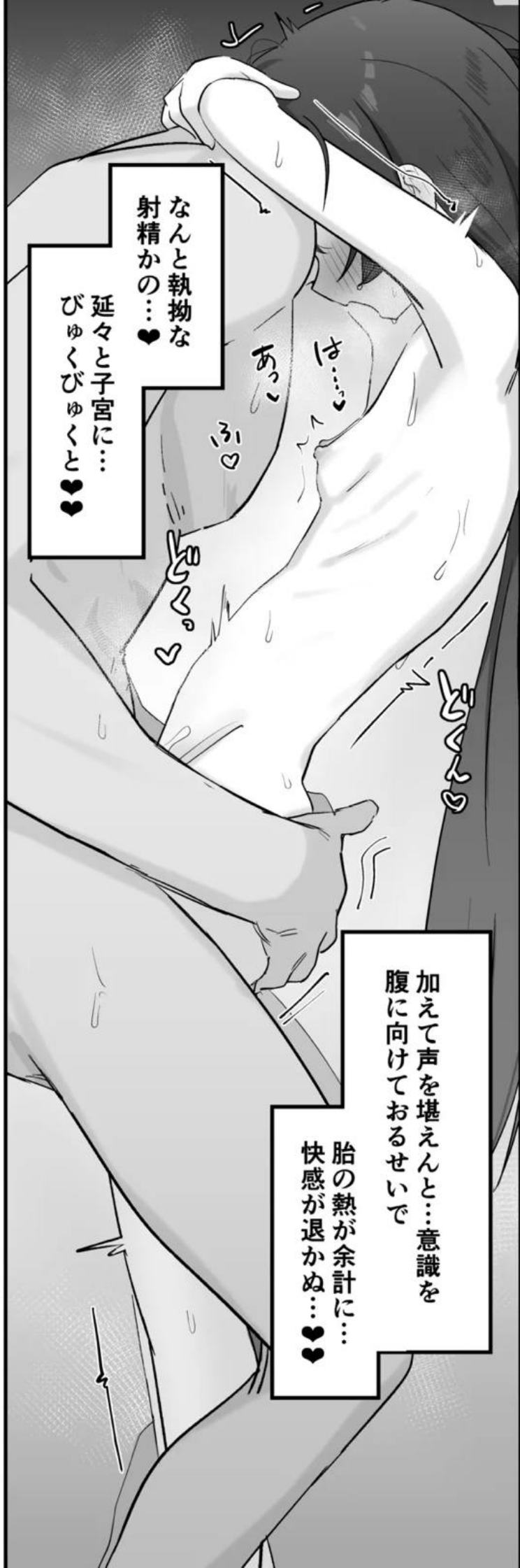
今はただ…この奢りに
浸っていたい…

先生の
膨んできた♡

どうか
このまま…♡

はー♡







下ろすよ?

うむ



ちゅー
ちゅー

ちよっ
前見えないから…

ちゅー
ちゅー

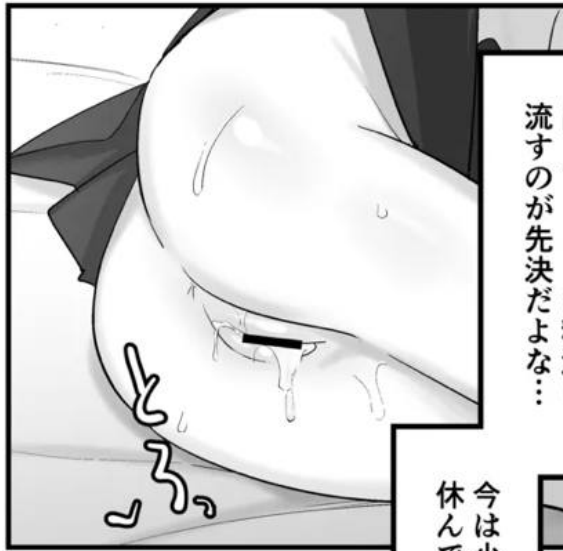
…だからその
また…元気に
なっちゃうんだって…



おっと…

す…すまぬっ

いや…謝るのは
私の方
っていうか…



いやそれより…最後また
出してしまった精液を
流すのが先決だよな…

今は少し
休んで…



先生…



っ!!



いやあ
危なかった…

反省の前にキサキの髪…
ちゃんと乾かさないと…
でもドライヤーは…
シャワー室だし…



日も昇り

髷め眉でこっちの
動きに合わせて
腰動かしてくるの
えっち過ぎ...

いつか此奴を
鳴かせてみせる...

締め切った休憩室で

改めて...
あのキサキが
裸ネクタイで...

言葉少なに
汲々と...

キサキの落けた声
毛の間に伝わる...

五月蠅い...

あゝ
めだっ♡

温いのが胎に
広がる感覚...
癖になっちゃった...



ギョッ

先生？
予算のことで
少し……って

あれ……いない

先輩の気配を
感じてドロンて
したんじゃない
んですか？

あんたじゃ
ないんだから……

まあ……誰かに
助けでも呼ばれて
行っちゃったんじゃ
ないですか？

ありえるわね……
モモトークで
一言入れとけば
いいかしら……

日も落ちてきたし
流星に終わろう……

そう……じゃの

……その……キサキ……
言い難いんだけど……

ちゅ、離して

ちゅ、ちゅ、ちゅ

みなまで
言わずとも良い
“次に逢える日”……
じゃろう？

……
それだけじゃ
ないんだけど……
まあ……
いつが
いいかな……？

……明日♡

……♡

ぽろぽろ♡
ぽろぽろ♡
ぽろぽろ♡

あとがき

本書をお買い上げくださり、心から嬉しく思います。
ありがとうございます。

えちち同人誌を作るのは初、
漫画自体も、前作というか前日譚と云うところの
キサキ初夜漫画(竜ノ華姫雷)から続く2作目。
「今ならこもっと良く描けるのに…」等の反省点は
挙げたらキリがないですが、
キャラ絵も漫画もなんも分からんなりに頑張りました…。
イラムラ止まらんえちかわ門主になっていたら何よりです。

キサキ本の続きに関し
構想はほんとうに多数あるのですが
大きなルート分岐が1つあって、どちらを取るか悩んでいます。
そもそも二着目がくるまで様子見する可能性も大にあったり。

内容がどうなるか、そもそも次回がいつになるか
色々和不透明ですが、研鑽を重ねて
シコリティオブライフを高めて往く所存です。

それでは
善きブルアカライフを…！

制作中、絵や漫画とあまり関係ないところで
重めにメンタルを引き摺ったりして、色々ギリギリだったのですが
ついったやpixivで皆様がくださる感想コメントの数々に
本当に、本当に励まされておりました。ありがとうございます。
(ちょくちょく恐れ多い表現が散見され、ひい…となりますが笑)

もしよろしければ、本作の感想等もどこかで呟いていただけますと
僥倖の至りにございます。

竜ノ華姫臨

発行日：2025年12月30日

発行者：寛容な羊羹

制作者：p-n

連絡先：damekamoona@gmail.com



twitter(x)



pixiv



fanbox

本作の内容を無断転載・複製・複写、web上へのアップロードする行為を固く禁止いたします。
また、AIへの学習もご遠慮ください。

健全な肉体



キサキの筋トレ補助asmrください(真顔)

完性体



快方に向かうイベスト&二着目ください(切実)



竜ノ華姫臨

Presented by Kanyo-Na-Yokan